

報告書

JSCAカヤックベーシック検定会兵庫会場

報告者：阪井雄司（アクロス瀬戸内カヌースクール）

- ・検定会場：兵庫県姫路市広畑区早瀬町2-3 7-2（知識）
兵庫県たつの市御津町室津大浦海岸（技術）
- ・開催日：2020年3月31日、4月1日
- ・検定員：阪井雄司
- ・デモ：阪井雄司
- ・受験者：1名
- ・要認定者：1名
- ・研修参加者：1名
- ・自然条件：曇り後晴れ、南風1m（コンビネーションの前進は追い風、後進は向かい風）
- ・前日に事前講習受講

4月1日が悪天候の予報であったので、日程を変更して実施。
3月31日技術、15時から総論の講義及びテスト。4月1日知識2科目を実施。

室内での講義では、コロナ対策としてアルコール消毒、マスク着用を行い、窓やドアを開けて換気が良い状態で、各自の間隔を開けて座席を配置した。

・技術

漕艇技術

前日に講習を行ったことでどの種目も安定した漕ぎができていた。ただし、十分な技術を習得しているわけではないので、今後習熟のための経験が必要であることを伝えた。

指導技術

前日の講習を踏まえて行っており、講習内容、伝え方など一定の水準に達していた。実際の現場に立つ前に、シュミレーションをしておくことが有効な方法であることを伝えた。

安全技術

・艇種の特性

シットインとシットオンの違いや特性（艇の形状やボリュームの違い、浮力体の必要性、ドレンプラグ、ハッチ、その他の点検など）

・活動フィールドの考察

現場の海岸、目の前の海、背後の地形などにフォーカスし、それぞれリスクを洗い出し、そのリスクへの対策を考え、それを受験者の現場に当てはめて見る作業を行った。

・レスキュー

トウイングロープとスローロープの違い、カウテール及びリリースシステムの説明。トウイング実習。ロープなど道具を使うときのリスク。

アシストレスキュー（艇の寄せ方、起こし方、ホールドの仕方など）

セルフレスキュー（シングル艇、タンデム艇）は、どちらのレスキューも確実にできていたが、スタッフ間で行うこと、定期的に行うことが重要であることを伝えた。

動力船が待機している体制であれば、動力船でのレスキュートレーニングも重要であると伝えた。

最後に、レスキューのトレーニングは必須であるが、レスキューが必要にならない対策や判断が重要であることを伝えた。

・知識

テストの内容だけに偏らないように、JSCAのインストラクター資格やインストラクターとして知っておいて欲しい事などを伝えた。

できるだけ一方的な講義にならないように受験者の経験や考えを引き出しながら進め、講義の内容によっては、受験者の活動形態や活動場所に照らし合わせて考え、できるだけ実感が湧くように配慮した。

所感

前日ではあったが、事前講習を行えたことで受験者は余裕を持って臨め、予備知識ができたためフィードバックも有効であったと感じた。

研修参加者がいたことで、講義の中でそれぞれの体験から話を広げることができたので、1対1の講義よりも内容が深まったと感じている。

日程を入れ替えたことを配慮して、安全技術でも2日目の講義においても補足説明をしながら進めた。結果として、寒さなどを気にせず「技術」を実施できたことで、余裕を持って考察したり実習してもらえたと感じている。